

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

フードサポートに参加して



7 月 25 日 (土) 協同にじクリニック敷地にてフードサポートが開催され、私は今回初めてボランティアとして参加いたしました。当日は事前に申し込みいただいた 150 世帯に食料品や日用品をお渡しすることが出来ました。

厳しい日差しが照り付ける中でしたが、職員から寄せられた日用雑貨をはじめ学用品やおもちゃ、衣類なども人気で、お子様連れの家庭が楽しく会話しながら選んでいる姿がとても印象的でした。

物価高騰が続くなか暮らしの困窮を身近に感じ、フードサポートの必要性を実感する時間となりました。医療現場とは違った形で地域の方々と関われる貴重な機会となりましたので、今後も継続して参加したいと思います。

5 階病棟 師長 上原 さゆり

異動・就任あいさつ



事務次長
ちねん つよし
知念 毅

8 月 1 日付で沖縄協同病院事務次長に就任いたしました知念毅と申します。沖縄医療生協に入職して 30 数年、10 ヶ所目の異動となります。17 年前に「やんばる協同クリニック」建設を進めるために沖縄協同病院を後にし、その後本部まちづくり推進部、協同にじクリニック、浦添協同クリニックへ異動があり、今回浦添協同クリニックの閉院をもって、沖縄協同病院へ戻ってくることになりました。浦添協同クリニックの閉院については思いもよらない残念な結果となってしまいましたが、昨今の医師不足や後継者育成の課題が沖縄医療生協にも当てはまった事例となっていました。大きく変わろうとしている沖縄協同病院への異動について重く受け止め、気力を振り絞って精一杯頑張る所存ですのでどうぞ宜しくお願い致します。

はいさい
9月号
アンケート病院の活動状況
<2026年7月度>

- ・外来一日平均患者数：226人（前年同月比 -16人）
- ・入院一日平均患者数：239人（前年同月比 -22人）
- ・組合員利用分量(率)：58.1%（前年同月比 -3.3%）

熊本地震支援(DMAT)



熊本労災病院 診療支援②



熊本労災病院 診療支援①



沖協出発式



このたびの令和 8 年熊本地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

沖縄協同病院では、沖縄県からの要請を受け、7 月 30 日から 8 月 1 日までの 3 日間、DMAT (災害派遣医療チーム) として医師 2 名、看護師 3 名、ロジスティクス (事務職員) 1 名の計 6 名を熊本県へ派遣しました。現地では、八代市の熊本労災病院を拠点に、活動拠点本部の指示のもと、避難所の状況確認や救急外来での診療支援にあたり、8 月 1 日に無事帰院しました。

被災された方々を支える医療従事者や関係者の皆さまもまた被災者であり、ともに活動した現地病院のスタッフの中にも、自宅に戻ることもできない方々がおられました。私たちは、その方々の負担を少しでも軽減できればとの思いで活動しました。

今回の派遣を通じて、日頃からの備えを積み重ねることの重要性をあらためて強く実感しました。被災地の一日も早い復興・復興を心よりお祈り申し上げるとともに、今後も災害医療への貢献に努めてまいります。

救急科部長
伊良波 禎

患者搬送について

患者さんは3年前に多発肺転移、後腹膜リンパ節転移診断され新潟大学で化学療法中でした。化学療法の合間に沖縄へ家族旅行に来た際に小腸穿孔にて救急搬送となり緊急手術を行いました。術後は挿管や昇圧剤も使用していたが抜管し酸素投与しながら状態は安定していきました。患者さんやご家族の想いとしてはやはり「新潟に帰りたい」という気持ちでした。新潟に帰りたい気持ちを実現させる為に医師・看護師・MSWと連携し短期間で準備を進めました。搬送時のリスク共有や薬剤確保、物品準備を行いました。



搬送当日は医師と役割分担を行いながら酸素調整や点滴管理を行い安全に搬送できるよう連携を取りました。飛行機の中は狭く不安が強いと思ったので頻回に声かけをし、息子さんにも寄り添ってもらい患者さんも安心していただけた様子でした。

12時間かけて新潟の病院に到着し家族と再会したときは「お父さんここまで頑張ったね」と声掛けされており無事に着いて本当に良かったと思いました。患者さんは搬送した翌日にご家族に見守られながら永眠されました。

今回、医療者、航空会社、民間救急の方と連携し患者を搬送する事は大変でしたが、やりがいがあり搬送中の対応も看護師の役割の一つであることを学びました。

ICU 看護師 片野 永里子

面会について

①面会時間：

一般病棟 午後3時～7時まで(荷物受け渡しを含む)
上記時間以外は原則、病棟ナースステーション前での対応となります。

※退院当日や病院からの呼び出しの為、来院の場合は、病棟ナースステーション内職員に声をかけてください。

集中治療室/ハイケアユニット(ICU/HCU)要予約

午前11時～11時30分 午後6時～6時45分

リモート面会となる場合があります。時間など事前にご相談ください。

②面会人数と時間：

原則 一度に3名(ご家族・親族、代諾者、後見人)

30分以内

※未就学児の面会はお断りしております。小児科は別途、年齢制限があります。病棟にてご確認ください。

※ICU/HCUに関しては中学生以上となります。

こんにちは赤ちゃん

当院で出生したBabyの写真です



嘉数愛悠ちゃん



上原叶多ちゃん

Instagramやってます

@okikyo.sanka



私の部署の いいところ

私たち医療事務課は総勢31名(歯科事務含む)のスタッフで構成されています。沖縄医療生協で24時間体制で動いている事務部門は当院医療事務課だけです。

外来・入院の受付や電話対応、保険請求の点検など多岐にわたる業務を行っています。また部署内は垣根なく、お互いに支え合いながら日々の業務に取り組んでいます。

若手からベテランまで幅広い世代のメンバーがそろい、和気あいあいとした雰囲気の中で仕事をしています。

明るく話しやすいスタッフばかりですので、受診の際はどうぞお気軽にお声がけください。

これからも、患者さまに信頼していただけるよう、親切・丁寧な対応を心がけてまいります。

医療事務課 外来 工藤 紗恵

医療事務課



認定(特定)看護師紹介 ⑤ 感染管理認定看護師



感染管理認定看護師は、職員や患者さん、そのご家族など、病院を利用されるすべての方を感染症から守ることを目的に活動しています。新型コロナウイルス感染症の世界的流行を機に、感染対策の重要性は広く認識されるようになりました。感染症はインフルエンザなど毎年流行するものから、まだ知られていない未知のものまでさまざまであり、日頃からの備えが欠かせません。そのため、院内の感染対策の実施状況の確認や職員への教育、感染症発生状況の監視などを行い、安全な医療の提供に努めています。

感染対策は一人よりも二人、二人よりも三人と多くの人がやる事でより効果を発揮します。日頃からの手指消毒や手洗い、ワクチン接種、院内でのマスク装着など、感染対策へのご協力をお願いいたします。これからも安心して診療や治療、療養環境の提供を目指して活動を続けていきたいと思っています。

感染管理認定看護師 松本 幸作



今も歩き続ける300年ガジュマル

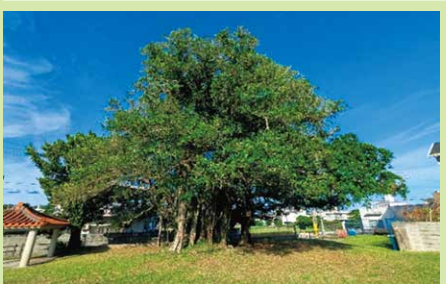
フンシーガジュマル・金武町伊芸



300年の宮殿へ続く神々しい回廊(上)ガジュマル広場には神アシャギがあり、祭りにぎわう(右)。

ガジュマルは『歩く木』と呼ばれる。南米エクアドルでは70mも歩いた木の記録もあるらしい。

ガジュマルから垂れ下がるヒゲ「気根」は空気から水と養分を得ている。やがて大地に根を張り、何層にも絡みつき、新しい幹へと成長する。元々の幹が寿命で枯れ果てると新しい幹がガジュマルの中心として君臨する。そんな新陳代謝の姿を「歩いた」と考えたのだろう。



太い幹の真ん中になぜかぽっかりと空いた穴。キジムナーは留守のようだった。

金武町伊芸の『フンシーガジュマル(風水ガジュマル)』と呼ばれる樹齢300年もの大木は、確かに大地へ一歩ずつ歩を進めている。

間近にガジュマルを見ると、その異様に圧倒される。幾重にも気根がからみつけた太い幹から四方へと伸びる枝は、何十匹もの龍のようだ。その枝から大地をつかみ取るように何本もの柱が生え、まるで宮殿の回廊のようである。



ガジュマルの気根は、新しい幹として力強く大地をつかみ、前へと進む。

さんぽ人には彼が海へ向かって歩いているように見えた。何千年後には伊芸の海を見つめるフンシーガジュマルの姿があるんじゃないかなあ。

さんぽ人 宮城 じゅん